

知床半島イワウベツ川およびホロベツ川のニホンザリガニ

町田 善康^{1*}・馬谷 佳幸²・寺山 元³

1. 092-0002 北海道網走郡美幌町字美禽 253-4, 美幌博物館 2. 098-2501 北海道中川郡音威子府村字音威子府 483, 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション北管理部中川研究林 3. 099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531, (公財) 知床財団

Native Japanese Crayfish in Iwaubetsu River and Horobetsu River of Shiretoko Peninsula

MACHIDA Yoshiyasu^{1*}, UMATANI Yoshiyuki² & TERAYAMA Gen³

1. Bihoro Museum, 253-4 Midori, Bihoro, Hokkaido 092-0002, Japan *✉gakugeit@town.bihoro.hokkaido.jp 2. Nakagawa Experimental Forest, Hokkaido University, Otoineppu, Hokkaido 098-2501, Japan 3. Shiretoko Nature Foundation, 531 Iwaubetsu, Shari, Hokkaido 099-4356, Japan

We tried to find native Japanese crayfish *Cambaroides japonicas* (De Haan, 1841) in Iwaubetsu River and Horobetsu River of Shiretoko Peninsula, Hokkaido Island, Japan on 28 to 29 Sept. 2012. We investigated eight tributaries of Iwaubetsu and Horobetsu River. But we couldn't catch crayfish. This crayfish is distributed in Shiretoko Peninsula. In order to conclude whether it inhabits or not in this study area, we need further research effort.

はじめに

ニホンザリガニ *Cambaroides japonicas* (De Haan, 1841) は、北海道と青森県の広い範囲、そして秋田県と岩手県の北部に分布する日本固有種である (齋藤 1996; Kawai & Fitzpatrick 2004; 川井ら 2009; Koizumi et al. 2012)。近年、宅地化に伴う生息地の開発や、水質汚染などによって個体数が減少していることから環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧II類 (VU) に判定されている (武田 2014)。

知床半島における本種の分布は、Kawai & Fitzpatrick (2004) が Utoro (斜里町ウトロ) で、川井ら (2009) が羅臼側で確認している (図)。本調査では、イワウベツ川で進められている河畔林と河川の再生事業の基礎調査の一環として、ニホンザリガニの生息確認を行った。

調査地および方法

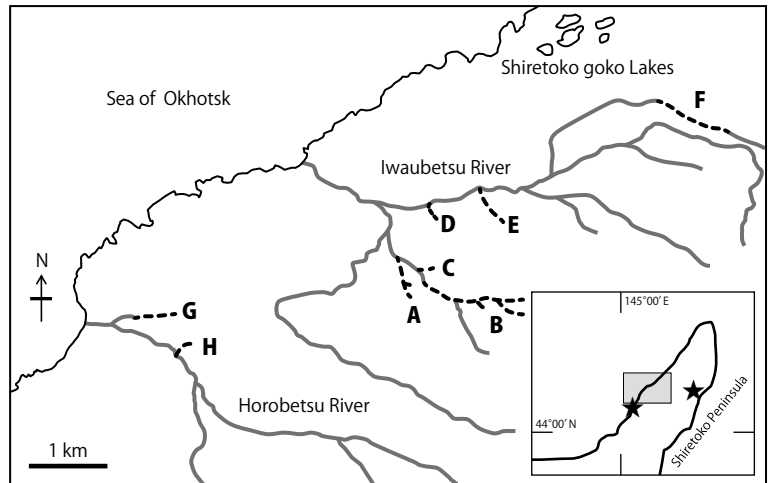
2012年9月28日から29日、北海道斜里郡斜里

町のイワウベツ川およびホロベツ川において調査を行った (図)。調査は Usio (2007) を参考に、図の破線で示した支流それぞれで、下流から川を遡行しながらニホンザリガニの生息しているような広葉樹に囲まれた流れの緩やかな場所で行った。捕獲は、川底を手で攪拌し濁りを嫌ってはい出てくる個体を探すか、石や倒木を反転させ巣穴に隠れている個体を網や手ですくい取る方法で行った。

結果および考察

ニホンザリガニは、最大でも全長6cm程度の大ききで動きも鈍い。生息地の大部分は、広葉樹に囲まれ、豊富な堆積微生物を含む低勾配の河川である (Usio 2007)。知床半島のような急勾配の河川が連続するような場所は、生息に不適と考えられるが、ウトロや羅臼側で生息が確認され、北海道の離島および半島などにも分布する (Kawai & Fitzpatrick 2004; 川井ら 2009; Koizumi et al. 2012)。このことから、本調査でも発見が期待されたが、ニ

図. 調査地点. 波線は8箇所の調査支流を示す (A-H). ★: 既知の産地 (Kawai & Fitzpatrick 2004; 川井ら 2009). Fig. Investigation site. The broken lines show eight investigation tributaries (A-H). ★: Representative localities hitherto known.



ホンザリガニの生息を確認することはできなかった。

おわりに

本稿をまとめるにあたっては、公益財団法人知床財団の松林良太氏にご助力頂いた。また、齋藤和範氏、知床博物館の村上隆広氏には、貴重な文献を拝見させて頂いた。加えて、Bastide Frederic氏には英文の校閲をして頂いた。ここに記して、感謝の意を表す。

引用文献

川井唯史・布川雅典・山田浩行. 2009. 北海道におけるザリガニ類の分布とニホンザリガニ生息地数の減少. 専修大学北海道短期大学地域総合科学研究センター報告 4: 51-56.

Kawai T & Fitzpatrick J. F. 2004. Redescription of *Cambaroides japonicus* (De Haan, 1841) (Crustacea: Decapoda: Cambaridae) with allocation of a type series and month of collection

of types. Proceedings of the Biological Society of Washington 117: 23-34.

Koizumi I, Nisikawa U, Kawai T, Azuma N & Masuda R. 2012. Loss of genetic diversity means loss of geological information: the endangered Japanese crayfish exhibits remarkable historical footprints. PLoS ONE 7: e33986.

齋藤和範. 1996. 北海道におけるザリガニ類の分布とその現状: 特集 北海道の生物多様性保全 3. 北方林業 48(4): 77-81.

武田正倫. 2014. ニホンザリガニ. 環境省 (編), レッドデータブック 2014: 日本の絶滅のおそれのある野生生物7; その他無脊椎動物 (クモ形類・甲殻類等). p. 41. 株式会社ぎょうせい, 東京.

Usio N. 2007. Endangered crayfish in northern Japan: distribution, abundance and microhabitat specificity in relation to stream and riparian environment. Biol Conserv 134: 517-526.